

社会(ごみの減量とリサイクル)から外部とつながる総合へ

～ペットボトルのリサイクルを通じて社会の課題について考える～

繰り返し関わる出前講座のご紹介



1 実施者

公益財団法人横浜市資源循環公社

2 目的

私たちの日常生活に多く使われているペットボトルは、分別ルールが徹底できていない状況があります。子どもたちにペットボトル(資源)が再生されて製品になることを経験してもらい、リサイクルの大切さや分別の重要性を理解してもらいます。また、学習を通して理解したことを子どもたち自身で「伝える方法」を考えて学校、家庭及び地域に発信する行動へ導くものとします。

3 出前講座内容

(基本講座は1回(45分×2コマ)ですが、ご要望によって総合に発展した場合には講座回数など調整・変更が可能です。)

(1) 基本講座 45分×2コマ

1コマ目 3R講座

2コマ目 ペットボトルに焦点を当てた講座

- ・ペットボトルの処理の流れを説明(収集→選別→再資源化事業者へ引渡し)
- ・ペットボトルを繊維状(糸)にする実験(リサイクル実験)
※アルコールランプを使用します
- ・海洋プラスチック問題のビデオを視聴

実験を通じ、ペットボトルをリサイクルするためには分別することが大切であることを実感してもらいます。100%分別を目指し、どうすればよいか子どもたち自身で考えてもらいます。

(2) 総合に発展した場合(例示) 45分×1コマ

過去の活動: 子どもたちが集めた量に相応するペットボトル再利用品マーク付繊維の交換

子どもたちの行動計画の発表・質疑応答

※民間事業者様の講座などご要望により変更可能です

4 先生の感想(元年度実施校)

- 自分たちが知らない事実もあり、今後も子どもたちと続けていく活動なので、大変勉強になった。
- 子どもたちが実験を見ることで、どうして分別して出さなければいけないのか、リサイクルについて深く理解できる。
- 講座を受講後、子どもたちが自然と環境に関する本を選ぶ姿が見られた。
- 2回目の講座で事業者様を招き、子どもたちが直接質問したり、ディスカッションできることは大変貴重な時間であった。